

第四十一回 台東薪能

令和三年九月一日（水）午後五時開演
上野恩賜公園野外ステージ 水上音楽堂

〈舞台浄め之儀〉

木遣り・纏振り 第五區木遣り会

番組

能

子方（富士ノ娘） 坂 瞳子

シテ（富士ノ妻） 坂 真太郎

富士太鼓

ワキ（臣下） 館田 善博

間（太刀持） 山本 則孝

大鼓 柿原 孝則
小鼓 鷓澤洋太郎

笛 一噌 隆之

狂言

仏師

シテ（すっぱ） 山本泰太郎

アド（田舎者） 山本凜太郎

〈休憩〉

能

ツレ（巫女） 中森健之介

シテ（六条御息所ノ生霊） 観世 喜正

ワキ（横川小聖） 森 常好

ワキツレ（臣下） 梅村 昌功

間（下人） 若松 隆

大鼓 柿原 弘和
小鼓 鷓澤洋太郎

大鼓 小寺真佐人
笛 一噌 隆之

葵上

附祝言

終演予定 午後八時

「演目のあらすじ」

能楽評論家 児玉 信

能『富士太鼓』

内裏で管弦の催しが行われたとき、太鼓の役をめぐって天王寺の楽人浅間が住吉の楽人富士を殺めてしまった——こんな架空の事件を背景に展開する物語で、シテは富士の妻です。

形見となった舞装束を前にして深く嘆く妻と幼い娘。やがて妻は形見を身に纏うと狂乱。娘の制止を振り切って夫の敵！と楽太鼓を撥（剣の代わり）で打ち据え、夫の無念を晴らした心で舞装束を脱ぎ棄てて去っていきます。美しい楽太鼓の作り物や、鳥兜を着る妻の姿が珍しいものです。

狂言『仏師』

持仏堂を建立した田舎者が、中に収める仏を買い求めに都へ上ります。仏師の居所を聞き忘れてきたとウロウロするうち、物売りが大声で商いをする様子を見て真似していると、「いいカモがいる」とスッパ（詐欺師）が近づいてきます。さて、どうなるか。見てのお楽しみです。

能『葵上』

『源氏物語』に拠るお話で、シテは六条御息所です。左大臣の息女で光源氏の妻葵上は、誰とも知れぬ物の怪に取りつかれ苦しんでいます。梓巫女が呼ばれ祈禱すると、葵上の枕元に近づいた物の怪の正体は光源氏の愛が遠のいたことを嘆き恨む六条御息所の生霊でした。葵上との車争いに敗れ、深く傷ついた心。昼間は理性で抑えられていた感情が、夜になると解き放たれて葵上に祟っていたのです。御息所の生霊は葵上を冥界に連れ去ろうとします。人の世の儚さ。美しくも哀れな物語です。